

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道8号 <small>いといがわひがし</small> 糸魚川東バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：新潟県糸魚川市間脇 至：新潟県糸魚川市押上			延長	6.9km	
事業概要	国道8号糸魚川東バイパスは、交通渋滞の解消・死傷事故件数の削減、沿道環境の改善などを目的とした、延長6.9kmのバイパス事業である。					
H元年度事業化	H2年度都市計画決定		H4年度用地着手		H10年度工事着手	
全体事業費	約450億円		事業進捗率 (令和4年3月末時点)	68%	供用済延長	3.1km
計画交通量	13,100~16,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 0.7 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 124/696億円 〔事業費：107/644億円 維持管理費：18/52億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 285/506億円 〔走行時間短縮便益：215/421億円 走行経費減少便益：53/66億円 交通事故減少便益：17/19億円〕	基準年 令和4年度		
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=0.7~0.8(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.1~2.5(交通量±10%)</p> <p>事業費：B/C=0.7~0.7(事業費±10%) 事業費：B/C=2.1~2.5(事業費±10%)</p> <p>事業期間：B/C=0.7~0.7(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.2~2.3(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①災害に強い道路ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道8号と北陸自動車道は、糸魚川市の東西を通過する幹線道路であり、重要物流道路に指定されている。 ・糸魚川東バイパスの整備により、幹線道路としての信頼性が向上し、当該地域において災害に強い道路ネットワークの形成が期待される。 <p>②夜間交通騒音の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道区間は、沿道に家屋が連続しており、夜間の交通騒音が環境基準を超過している。 ・糸魚川東バイパスの整備により、現道部での交通量が減少するため、夜間の交通騒音が低減し、沿道環境の改善が期待される。 <p>③救急医療機関へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川東バイパス脇に立地する糸魚川総合病院（第二次医療施設）は、市内唯一の総合病院として地域の医療を支える役割を担っている。 ・糸魚川東バイパスの整備により、能生地域から糸魚川総合病院へのアクセス性が向上することで、迅速な救命救急活動などを支援する。 <p>④物流効率化による企業活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市に立地する重要港湾である直江津港は、国際物流の拠点として重要な役割を担っている。 ・糸魚川市内の姫川産業団地には、直江津港で材料や製品の輸出入を行っている企業が立地。 ・糸魚川市に点在する企業と直江津港間に位置する糸魚川東バイパスが整備されることにより、安定した物流ルートの確保が期待される。 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見</p> <p>糸魚川市や糸魚川国道8号整備促進期成同盟会から国道8号糸魚川東バイパス間脇～梶屋敷間について、調査・設計を推進し、早期に工事着手に向けた要望を頂いている。</p> <p>知事の意見</p> <p>県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業は、交通</p>					

混雑の緩和や交通事故の減少につながるとともに、糸魚川総合病院や直江津港などの様々な施設へのアクセスが向上され、当県にとって重要な事業と認識しております。今後もコスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。併せて、本県の財政状況は逼迫していることから地方負担の軽減や直轄負担金の平準化などをお願いします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地取得率97%、事業進捗率68%、（令和4年3月末時点）
- ・残事業の内容：用地取得、調査設計、工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・糸魚川市間脇～糸魚川市梶屋敷（延長3.8km）の早期開通を目指して整備を進める。
- ・完成4車線整備区間である糸魚川市梶屋敷～同押上間については交通量の状況や投資効率性等を勘案して検討していく。

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の有効利用やコンクリート二次製品・長尺製品の活用や新技術の活用等によるコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図

【広域図】



【位置図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。